

第2学年 国語科学習指導案

3組 計20人（男子 9人、女子11人）

指導者 田之上 貴 文

1 単元 音読げきをしよう（教材「お手紙」 光村2年下）

2 単元の目標

教材「お手紙」の場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げて読み、読み取った内容に自分の経験を結び付けて、考えをまとめ伝え合うことができる。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語についての知識・理解・技能
音読の面白さに気付き、登場人物になりきって進んで読もうとしている。	- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、声の出し方を工夫して音読している。 【(1)ア】 - 場面の様子について登場人物の行動を中心に想像を広げながら読んでいる。 【(1)ウ】 - 教材「お手紙」の文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ伝え合っている。 【(1)オ】	主語と述語の関係や会話文に注目して読んでいる。 【(1)カ】

4 単元について

(1) 単元の位置とねらい

本学級の子どもたちは、教材「ふきのとう」の学習において、場面の様子や登場人物の行動の変化や気持ちに着目して想像して読み、好きな場面を選んで語句のまとまりや言葉の響きに気を付けながら、役に分かれて音読する学習を経験している。また、教材「スイミー」の学習においては、場面の様子や登場人物の行動の変化に着目して、想像して読むとともに、心に残った場面の大事な言葉を書き抜き、感想を紹介する学習を行ってきた。

そこで、本単元ではこれまでの学習を生かし、言語や挿絵などを手掛かりにして、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げて読み取る力を付けるようにする。そして、読み取った場面や人物の行動をどのように読んで表現すればよいのか自分の思いや考えをまとめ、伝え合うことができるようにする。それらの力を付けるため、「C読むこと」の言語活動例「イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりする言語活動」として音読劇に取り組むことができるようにする。音読劇を設定することで、聞く人に様子を分かりやすく伝えるという明確な目的意識をもって、学習に取り組むことができると考える。

教材「お手紙」は、かえるくんとがまくんの心の触れ合いを通して、互いを大切にする二人の友情が伝わってくる物語である。子どもたちは、親しみのもてる登場人物に寄り添い、共に悲しんだり喜んだりして物語の世界に浸ることができる。また、会話文を中心に物語が展開され、場面の様子や登場人物の行動をよく表している挿絵も用いられているため、それぞれの人物になりきって音読する楽しさを味わうことができる。

本単元で子どもたちは、会話文や地の文、挿絵などを手掛かりに場面の様子について、登場人物の行動を中心に読むことで、想像を広げて読むことができる。そして、読み取ったことを音読劇で表現するために、声の出し方や動き、表情などを考えたり、話し合ったりすることで、聞き手に場面の様子がよく伝わる音読劇を行うことができると考える。

ここでの学習は、文章の内容と自分の経験を結び付けて読み、今の成長を文章で書く、教材「わたしはおねえさん」の学習へとつながっていく。

(2) 子どもの実態（調査日 平成24年9月14日 調査人数20人）

本単元の内容に関わる子どもの実態については、以下のとおりである。（数字は人数）

【調査①】 音読に関する興味・関心「音読ではどんなこと楽しかったですか。」（複数回答）
声の出し方を工夫すること（13） 声を出して読むこと（7）
【調査②】 音読に関する理解「音読するときに大切なことは何ですか。」（複数回答）
ア 声の大きさ（18） イ 読む速さ（18） ウ 間の取り方（6） エ 表情（6） オ 人物の気持ち（16） カ その他（1）
【調査③】 場面の様子の読み取りの理解「時間、場所、事件、登場人物に関する問題」
時間（17） 場所（18） 事件の発端（15） 登場人物（20） *（ ）は正答人数
【調査④】 登場人物の行動の読み取りの理解「人物の行動に関する問題（行動と理由）」
行動と理由を正確につかんでいる（12） おおよそつかんでいる（5） つかんでいない（3）

本学級の子どもたちの多くが、物語を音読することを好んでおり、読み方を工夫して場面の様子や登場人物の行動を音読することの楽しさを感じている（調査①）。音読の際に気を付けることとして、声の大きさや読む速さなど、声の出し方に注目している子どもが多い。一方で、表情や間など登場人物の気持ちの表し方に注目している子どもは多くない（調査②）。場面の様子の読み取りは、多くの子どもが場面状況の理解に必要な内容を読み取ることができている（調査③）。そして、学級の半数の子どもが登場人物の行動の読み取りにつながる考えをもつことができている（調査④）。

5 指導に当たって（研究との関連）

【「思考活動」を促す学習指導】

- 「つかむ」過程では、「ふきのとう」の学習のノート記録や音読発表会の動画を確認することで、学習経験の内容を想起することができるようにする。そして、「ふきのとう」と「お手紙」の単元名とリード文を提示し、その違いに着目させることで、本単元とこれまでの学習との違いを考えることができるようにする。そうすることで、場面の様子や登場人物の行動について読み取ったことを音読に生かすことに加えて、音読の声の出し方以外にも動作、表情などを工夫する必要があることなどに気付かせ、単元の学習の課題に向けた見通しをもつことができるようにする。

【「思考活動」：「想起」、「比較」】

- 「深める」過程では、教材文や挿絵、読みの視点が示されている思考活動カードを用い、叙述にサイドラインを引かせることで、場面の様子や登場人物の行動を読み取ることができるようにする。また、拡大した挿絵などを提示したり、役割演技の舞台上で動作化したりすることで、場面の様子や登場人物の行動を想像を広げて考えることができるようにする。各場面において登場人物の会話文、行動や気持ちを比較させることで、想像を広げながら場面の様子を読むことができるようにする。そして、各場面の読み方を考え、声の出し方を工夫した音読の様子を動画で録画し、確認することで、場面の様子を伝えるためには、どのような音読の仕方が効果的なのか考えることができるようにする。

【「思考活動」：「比較」】

- 「高める・味わう」過程では、各場面の挿絵や登場人物の行動が表れた箇所にサイドラインを引いた教材文、音読の声の出し方や動作の例などを設営することで、子どもたちが音読劇での読み方や動きなどを「台本カード」にまとめることができるようにする。
- 「まとめる・広げる」過程では、評価の観点を示し、音読劇や「台本カード」の声の出し方や動きなど、音読劇をするとき大切なことを確認し、互いの表現のよさを伝え合うことができるようにする。

【「思考活動」：「評価」】

【評価するための手立ての具体化】

読み取った各場面の様子や登場人物の行動の内容が、音読劇の声の出し方や動きなどの工夫に、どのように生かされたか見取ることで評価を行う。評価の方法は、「深める」過程と「高める・味わう」過程において中心的に行う。「深める」過程においては、読み取りに関するノート記述を中心に、「高める・味わう」過程においては、「台本カード」の記述を中心に見取っていく。

6 指導計画（全13時間）

〔 〕は重点評価項目及び評価方法

過程	時間	主 な 学 習 活 動	教 師 の 指 導 ・ 評 価
つかむ	2	1 これまでの学習を振り返り、単元の学習課題をつかむ。 登場人物になりきって、場面の様子や人物がしたことがよく伝わる音読劇を三年生に発表しよう。 2 教材文を読み学習計画を立てる。 3 お手紙の場面構成と主な出来事をつかむ。	○ 「ふきのとう」のノートの記録を読み、音読発表会の動画を視聴することで、これまでの学びを想起することができるようにする。 ○ 単元名とリード文を確認し、これまでの単元と比較し、学習課題について考えることができるようにする。 音読の面白さに気づき、場面や人物の様子が伝わるように読もうとしている。 【国語への関心・意欲・態度：発表，ノート】 ○ 挿絵を基に、各場面の様子を捉えることで、簡単な粗筋を理解することができる。
深める	5	4 教材文「お手紙」を読み、場面の様子や人物の様子を読み取る。 ○ お手紙をもらえないがまくん ○ お手紙を書くかえるくん ○ お手紙の到着を待つかえるくんとがまくん（本時5/13） ○ 幸せな気持ちでお手紙を待つ二人	○ 思考活動カードを活用して、場面の様子や登場人物の様子が分かる部分にサイドラインを引いたり、挿絵に書き込んだりすることで、場面の様子や人物の行動、気持ちなどを読み取ることができるようにする。 ○ 音読の様子を動画で録画し、確認することで、効果的な音読の仕方について考えることができるようにする。 ○ かえるくんの動きを表す同じような繰り返しの言葉に気付かせることで、場面の様子や人物の動き、気持ちを考えることができるようにする。 ○ 人物の会話文や地の文を動作化させることで、場面の様子や登場人物の動き、気持ちを想像を広げて考えることができるようにする。 主語と述語の関係や会話文に注目して、読める。 【言語についての知識・理解・技能：発表，ノート】 場面の様子や場面ごとの人物の様子を読み取り、想像を広げながら読んでいる。 【読む能力：発表，ノート，音読】
高めよう	4	5 自分が音読劇をしたい場面を選び、読み方や動き、理由を整理して「台本カード」を作る。 6 一人一人の「台本カード」を基に話し合い、グループの「台本カード」を作る。 7 グループで音読劇の練習をする。	○ 各場面の挿絵や声の出し方、動作化の様子を振り返らせることで、「台本カード」にまとめることができるようにする。 ○ 「台本カード」の記述を比較することで、場面の様子や人物の様子をよりよく表す声の出し方や動きなどを選択することができるようにする。 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ伝え合っている。 【読む能力：音読，台本カード】
まとめる	2	8 三年生に「お手紙」の音読劇を発表する。 9 本単元の学習を振り返り、感想を伝え合う。	語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、声の出し方を工夫して音読している。 【読む能力：音読，台本カード】 ○ 音読劇の前に「台本カード」を提示し、考えたことの説明をすることで、どのように考え、表現を工夫したのか伝えることができるようにする。

7 本 時 (5 / 13)

(1) 目 標 かえるくんやがまくんの会話文や行動から、手紙を待つかえるくんの気持ちを読み取ることができる。

「思考場面」：かえるくんの気持ちを考える場面

「思考活動」：比較する「材料」：教材文（叙述），挿絵 「視点」：場面の様子（場，時），登場人物の行動（会話文，行動，気持ち）

(2) 展 開 は教師の言葉掛け は予想される子どもの反応 は重点評価項目 ☆はICTの留意点

過程(分)	主な学習活動と予想される子どもの反応	教 師 の 指 導 ・ 評 価
つかむ (5)	1 前時までの学習を想起し、本時の学習の見通しをもつ。 前の場面にかえるくんは、大急ぎで家に帰って何をしましたか。 今日の場面は、どんな場面ですか。 手紙がもらえないで悲しんでいるがまくんを喜ばせるために、手紙を書きました。 かえるくんといっしょにお手紙を待つ場面です。	☆ デジタル教科書の挿絵を基に2の場面の様子を想起した後、3の場面の挿絵や教材文を提示し、本時の場面の様子を確認し、学習課題を考えることができるようにする。 ○ 同時に二人の行動や気持ちを読み取ることは難しいため、かえるくんの行動や言った言葉を中心に焦点化して読み取ることができるようにする。
深める (30)	2 学習課題を確認する。 かえるくんは、どんな気持ちで何度もまどの外を見ていたのだろうか。 3 窓の外を見ているかえるくんの行動や会話文に気を付けながら、学習範囲を音読する。 4 かえるくんの行動や会話文から、気持ちを読み取る。 (1) 手紙を待つかえるくんの行動や言った言葉に線を引く。 (2) 手紙を待つかえるくんが、がまくんと交わした会話や行動を確認める。 会話文「ひょっとして、誰かが君に……。」「きょうは、だれかが、君にお手紙……。」「きみ、起きてさ、お手紙来るの……。」 行 動「窓から郵便受けを見ました。窓からのぞきました。 かえるくんの行動で何か気付くことはありませんか。 外を繰り返し見えています。 (3) 手紙を待つかえるくんの気持ちを考える。 気持ち「早くお手紙が、届かないかな。手紙が届くと、がまくん元気になるのに。がまくんが、元気がなくなってきた。かたつむりくん、早く来て。お願い。お手紙が来ることを言ってしまうたい。	○ 教材文のどのような点に着目して考えていけばよいか考えることで、課題解決の見通しをもつことができるようにする。 ☆ 最初に音読する様子を録画し、本時のまとめ後の音読と比べることで、読み取ったことを最後の音読にどのように生かすことができたか、自己の学びを振り返ることができるようにする。 ○ 思考活動カードの叙述に種類を変えてサイドラインを引かせることで、かえるくんの動きと言った言葉を整理し、気持ちを考えることができるようにする。 ○ かえるくんの会話文の中で気持ちが強く表れるところに注目させることで、気持ちや声の出し方を考えることができるようにする。 ○ 窓の外を見るかえるくんの動きを動作化させることで、行動を基に気持ちを考えることができるようにする。
高めうる (5)	5 手紙を待つかえるくんの気持ちで中心となっている気持ちを話し合う。 三回手紙を待ったかえるくんは、どんな気持ちを強く持っていたのかな。 ○ 早くお手紙を渡して一緒に喜びたい。 ○ ぼくが書いたことを言ってしまうたい。	○ かえるくんが繰り返し行っている同じ動きを基に、場面を3つに分け、それぞれの場面のかえるくんの気持ちを比べることで、かえるくんの気持ち捉えることができるようにする（比較する）。
広げる (5)	6 本時の学習を振り返って、まとめをする。 かえるくんは、がまくんを早くよこばせたいと、強く思っていたから、何度も窓の外を見ていた。 7 読み取ったことを生かして、どのように音読すればよいか考える。 かえるくんのがまくんの気持ちが表れるように音読するには、どんな読み方の工夫をすればよいでしょうか。 優しく元気付けるように、声の大きさを工夫して読めばいいと思います。 8 まとめの音読をする。	場面の様子について登場人物の行動を中心に想像を広げながら読んでいる。 【読む能力 発表、思考活動カード、ノート】 ○ 3つに分けた場面でのかえるくんやがまくんの様子を確認し、声の出し方を押さえることで、人物の様子がよりよく伝わるように音読することができるようにする。 ☆ 最初に音読した様子を視聴することで、本時で学習したかえるくんの気持ちをどのように読めばよいか考えることができるようにする。

第2学年国語科「お手紙」における評価資料			
重点評価項目			
教材「お手紙」の場面の様子について登場人物の行動を中心に想像を広げて読み、読み取った内容に自分の経験を結び付けて、考えをまとめ伝え合うことができる。			
評価の観点			※学習活動（時）
ア	音読に関する こと	語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけ、声の出し方を工夫して音読している。	7（10/12）～
ウ	文学的な文章の解釈に関する こと	教材「お手紙」の各場面において、場面の様子を 読み取っている。	3（2/12）～
		教材「お手紙」の各場面において、登場人物の行 動や気持ちを 読み取っている。	4（3/12）～
オ	自分の考えの 形成及び交流に 関すること	音読劇に取り組む際の声の出し方や動き、表情を、 読み取った場面の様子や登場人物の行動、気持ちを 根拠として考え、伝え合っている。	5（8/12）～
評価方法：観察、発表、ノートの記述、台本の記述、音読劇での声の出し方や動き、表情			
十分満足できる（A）		おおむね満足できる（B）	
（ア、ウ、オを満たし、これまでに学習した単元の指導事項の内容を活用できている） ○ 他の場面の様子や登場人物の行動と関連付けて、想像を広げて読み取ることができる。 ○ 他の場面での読み方について振り返り、本時の読み方と比べたり、生かしたりして読むことができる。		ア 語のまとまりや言葉の響きに気を付け、声の出し方を工夫して、はっきりとした発音で読んでいる。 ウ 教材「お手紙」の各場面において、時間、場所、登場人物を読み取っている。 ウ 教材「お手紙」の各場面において、登場人物がどうしたか、その時どう思っていたのかを読み取っている。 オ 音読の声の出し方や動き、表情を、「○○（読み方、動き方など）する。その理由は、□□（登場人物の気持ちが□□）だからです。」と、根拠や理由を明らかにして書いている。	
表 現（記 述）例			
他の場面での登場人物の行動と関連付けて、想像を広げて読んでいる。 音読例（第3場面前半部分から抜粋） ○「きみ、おきてさ、お手紙がくるのを、 <u>もうちょっとまってみたらいいと思うよ。</u> 」 待つことを勧めるように読む。 かたつむりくんがいつくるかわからないので早く、またせたいから。 「すぐやるぜ」と言ってくれたかたつむりくんが持ってきてくれた手紙を、がまくんに受けとってもらって、喜んで欲しいから。		「台本カード」の記述例（第3場面前半部分から抜粋） 場所 がまくんの家 時間 お昼寝の時間 登場人物 がまくんとかえるくん 「がまくん。」 「きみ、おきてさ、お手紙がくるのを、<u>もうちょっとまってみたらいいと思うよ。</u>」 よびかけるようにゆっくり読む。 かえるくんは、お手紙がこれから来ることを知っているから。 がまくんにばれないように気持ちをかくしているから。	
評価を生かした指導			
〈Bの学習状況の子どもに対して〉 ○ 教室に掲示されている、各場面の教材文に注目させ、他の場面の様子や登場人物の行動と関連付けさせる。		〈Cの学習状況の子どもに対して〉 ○ 「深める」過程のノート記述や、教室設営を基に、場面の様子や登場人物の行動を想起させる。 ○ 音読の仕方のポイントを焦点化することで、読み方を考えることができるようにする。	

※ 指導案「6 指導計画」の学習活動